
白い夜叉を纏う閃光

白鷗 斬月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い夜叉を纏う閃光

【Nコード】

N4780Z

【作者名】

白鷗 斬月

【あらすじ】

攘夷戦争から数年後…。

再会する兄弟…そして、動き出す齒車。

ブローグ

『その男、白い夜叉を纏い戦場を駆るスピードは、一筋の閃光に…』
攘夷戦争で呼ばれた二つ名は…

～迅速の月光～

『その男、銀色の髪に血を浴び、戦場を駆る姿はまさしく…夜叉』
攘夷戦争で呼ばれた二つ名は…

～白夜叉～

なあ、銀時

ん？

この戦争が終わったら、どうしたい？

ンだよ、いきなり？

…そうだな、先生はいないけど、また、みんなと一緒に過ごせたらいいな…

…そうだな、俺も賛成だ。みんなと一緒に…

なあ？

ん？

……今言ったこと、忘れんなよ。

……ああ、わかった。忘れない。

第一話〈夢の中の記憶〉（前書き）

感想お待ちしています！

では、本文どうぞ

…短いです

第一話〈夢の中の記憶〉

「ッ！」

ガバリと勢いよく布団から起き上がる。

「…ンだよ、チクショー…」

辺りを見回してから溜め息を吐くと、のっそりと居間へ移動する。
どうせ寝たくても、夢のせいで寝られないだろう。

「懐かしいな…時雨が出てくる夢なんて…」

いつ以来だろうか？と思いながらソファーに座っていると、インターホンが鳴った。

新八だろう、と予想して、今考えていたことを振り払う。子供は勘がいいから、心配されても困る。

別にもう、いいだろう…

時雨はもう…

いないのだから…

第一話〈夢の中の記憶〉（後書き）

質問があれば、どうぞ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4780z/>

白い夜叉を纏う閃光

2011年12月16日19時49分発行